

TYPE OF INDUSTRY

不撓不屈

ふとうふくつ

故郷で研究へ

生物資源研究所（沖縄県名護市）は、根路銘昭が所長と社長を務め、医薬品の研究開発を手がける企業だ。沖縄などに自生する広葉樹センダンを使い、副作用のない経口抗がん剤の開発を目指している。

生物資源研究所 ②

恩師のがん進路を変更

だが十数年前に研究を始めたがん分野は、まったく畑違いだった。それでも研究フィールドをがんに移したのは理由がある。

副作用ない医薬品求める

2000年、根路銘は30年以上勤めた国立感染症研究所で定年を迎えることになった。退職後、ある大学から学部長として招きたいと話が来るとおり心も動いていた。

病床で論文紡ぐ

しかし、時を同じくしてある人物から、末期がはそろっている。根路

銘はそれに応える。2日半に1度病床を訪ねて論文を紡いだ。「目も見えなくなっていた。痛みでものすごい形相だった」。

大学ポスト蹴る

推敵は根路銘が原稿を読むかたちで行い、論文は



銘が国際協力の機構（JIC）の事業で学の出発する直前のことだった。

生物資源研究所社長の根路銘昭。十数年前に研究を始めたがん分野は、まったく畑違いだった。

中小企業・地域経済

（敬称略）